

資料11-1 環境基準項目に係る達成割合一覧(令和3年度)

項目種	項目名	達成数	全数	達成率(%)
生活環境項目	pH(注1)	1205	1228	98%
	DO(注1)	454	468	97%
	BOD(注2)	37	38	97%
	COD(注2)	9	9	100%
	SS(注1)	316	316	100%
	大腸菌群数(注1)	136	228	60%
	全窒素(注3)	1	1	100%
	全磷(注3)	1	1	100%
	全亜鉛(水生生物項目)(注3)	22	29	76%
	ノニルフェノール(水生生物項目)(注3)	29	29	100%
	LAS(水生生物項目)(注3)	29	29	100%
健康項目 (注3)	カドミウム	35	35	100%
	全シアン	35	35	100%
	鉛	35	35	100%
	六価クロム	35	35	100%
	ヒ素	35	35	100%
	総水銀	35	35	100%
	PCB	35	35	100%
	ジクロロメタン	35	35	100%
	四塩化炭素	35	35	100%
	1,2-ジクロロエタン	35	35	100%
	1,1-ジクロロエチレン	35	35	100%
	シス-1,2-ジクロロエチレン	35	35	100%
	1,1,1-トリクロロエタン	35	35	100%
	1,1,2-トリクロロエタン	35	35	100%
	トリクロロエチレン	35	35	100%
	テトラクロロエチレン	35	35	100%
	1,3-ジクロロプロペン	35	35	100%
	チウラム	35	35	100%
	シマジン	35	35	100%
	チオベンカルブ	35	35	100%
	ベンゼン	35	35	100%
	セレン	35	35	100%
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	38	38	100%
ふっ素(注4)	29	29	100%	
ほう素(注4)	24	29	83%	
1,4-ジオキサン	35	35	100%	
総数		3135	3277	96%

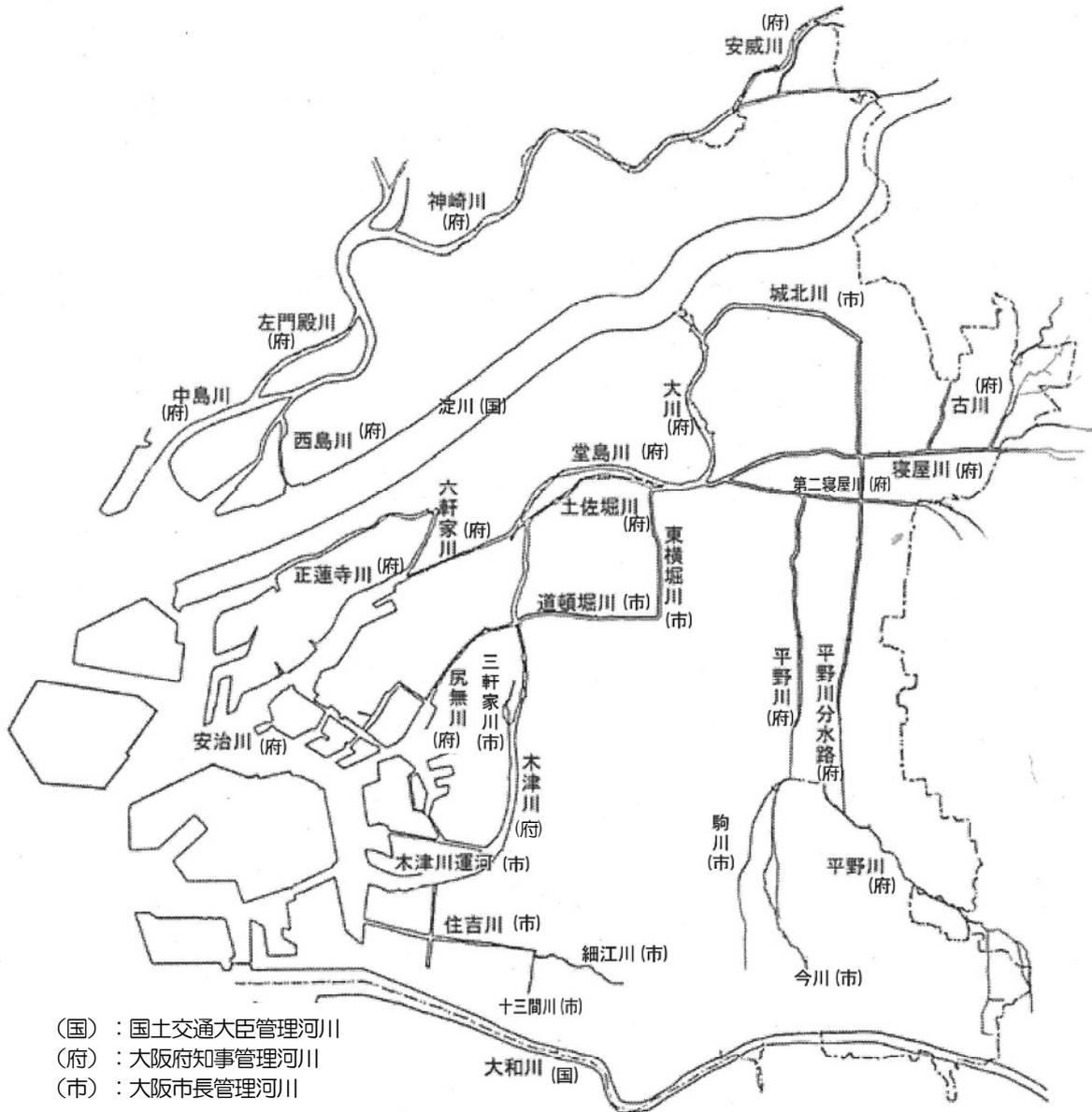
注1: 環境基準適否の評価は、日間平均値によるものである。(年間評価方法の規定がないため)

注2: 環境基準適否の評価は、年間の日間平均値の75%水質値によるものである。

注3: 環境基準適否の評価は、年間平均値によるものである。

注4: ふっ素及びほう素の未達成については、海水影響によるものである。

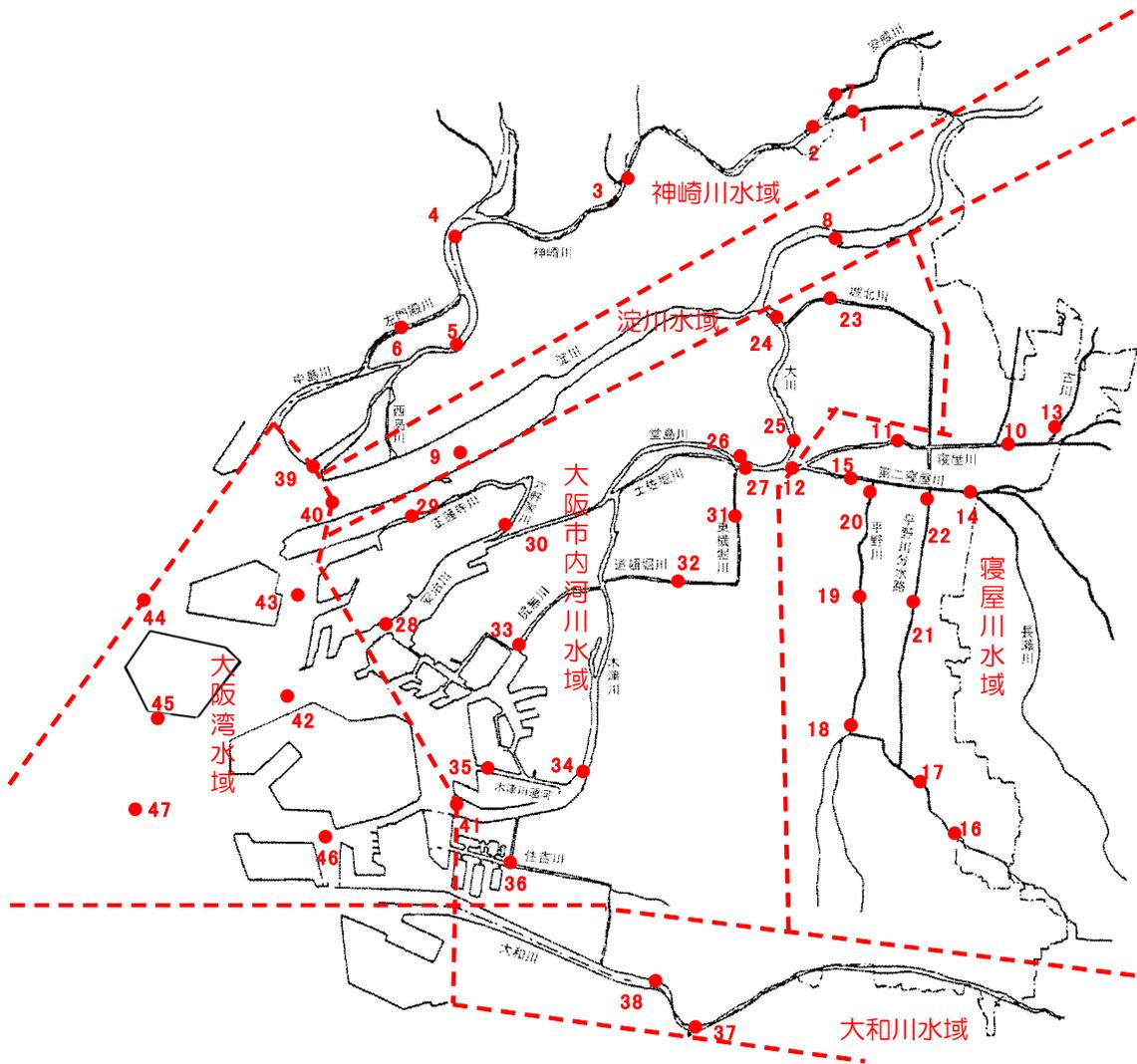
資料11-2 大阪市内河川の水質測定水域区分



水質測定水域区分	河川名
淀川水域	淀川
神崎川水域	神崎川、左門殿川、安威川、中島川、西島川
寝屋川水域	寝屋川、古川、第二寝屋川、平野川分水路、平野川、駒川、今川
大阪市内河川水域	大川、城北川、堂島川、土佐堀川、道頓堀川、正蓮寺川、六軒家川、安治川、 尻無川、木津川、木津川運河、住吉川、東横堀川、細江川、十三間川
大和川水域	大和川

資料11-3 水質調査地点図

【計47地点(内大阪府実施5地点、近畿地方整備局実施4地点)】



No.	地点名	河川名	No.	地点名	河川名	No.	地点名	河川名	No.	地点名	河川名
△1	小松橋	神崎川	14	阪東小橋	第二寝屋川	28	天保山渡	安治川	△39	神崎川河口中央	大阪港(大阪湾)
2	吹田橋	〃	△35	下城見橋	〃	29	北港大橋	正蓮寺川	△40	淀川河口中央	〃
3	新三国橋	〃	16	中竹洲橋	平野川	30	下流700m	〃	△41	木津川河口中央	〃
△4	神崎橋	〃	17	安泰橋	〃	31	春日出橋	六軒家川	△42	No.5フイ跡	〃
5	千船橋	〃	18	睦橋	〃	32	本町橋	東横堀川	43	No.25ドルフィン	〃
6	辰巳橋	〃(左門殿川)	△38	南弁天橋	〃	33	大黒橋	道頓堀川	44	北港沖1000m	〃
7	新京阪橋	安威川	20	城見橋	〃	34	甚兵衛渡	尻無川	45	大阪港関門外	〃
8	菅原城北大橋	淀川	21	片一橋	平野川分水路	46	千本松渡	木津川	△46	南港	〃
9	伝法大橋	〃	22	天王田大橋	〃	35	船町渡	木津川運河	47	大阪湾C-3	〃
10	今津橋	寝屋川	23	赤川橋	城北川	36	住之江大橋	住吉川			
11	新喜多大橋	〃	24	毛馬橋	大川	37	下流1100m	〃			
12	京橋	〃	25	桜宮橋	〃	38	浅香新取水口	大和川			
13	徳栄橋	古川	26	天神橋(右)	堂島川	39	遠里小野橋	〃			
			27	天神橋(左)	土佐堀川						

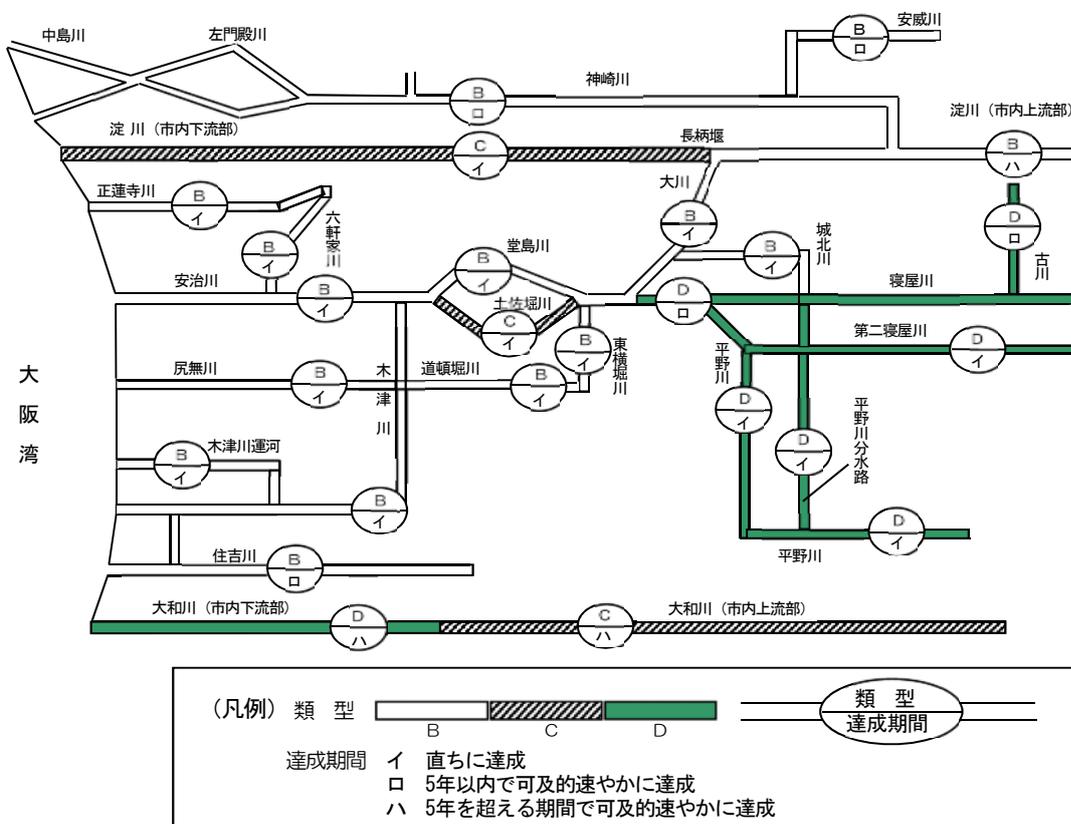
(注) 1. No. 3, 4, 6, 7, 47は大阪府、No. 8, 9, 37, 38は近畿地方整備局がそれぞれ測定しています。
 2. 表中の数字No.の○は環境基準点、△は準環境基準点、それ以外は本市の独自地点です。
 3. 健康項目は環境基準点、準環境基準点において監視しています。

資料11-4 各水域の環境基準達成状況(令和3年度)

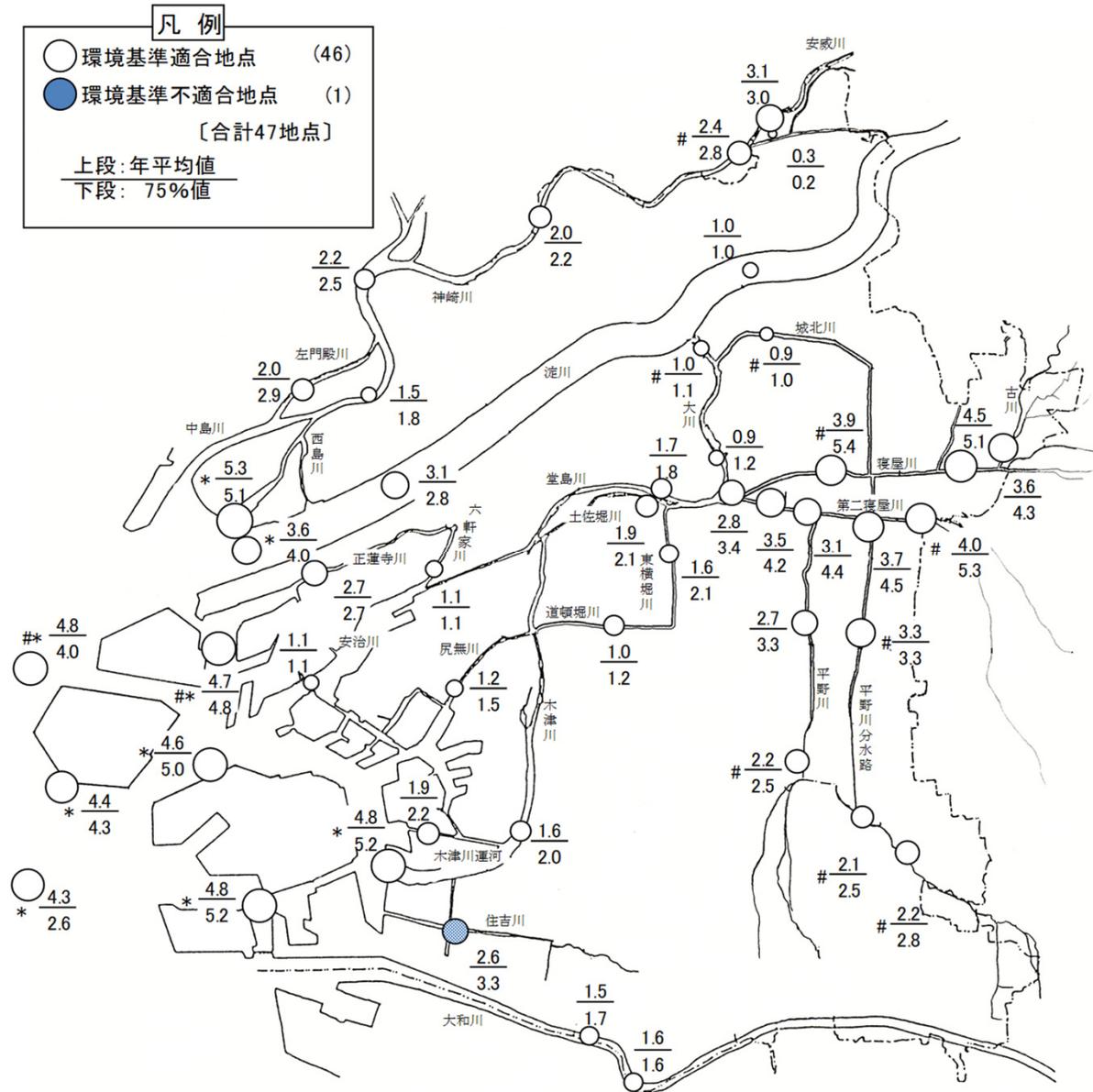
水 域 名	環境基準類型	環 境 基 準	達 成 状 況
淀川水域(市内上流部) 淀川水域(市内下流部)	B類型 C類型	BOD 3mg/L以下 BOD 5mg/L以下	すべての地点で達成 すべての地点で達成
神崎川水域	B類型	BOD 3mg/L以下	すべての地点で達成
寝屋川水域	D類型	BOD 8mg/L以下	すべての地点で達成
大阪市内河川水域 (土佐堀川を除く) (土佐堀川)	B類型 C類型	BOD 3mg/L以下 BOD 5mg/L以下	14地点中13地点で達成 すべての地点で達成
大和川水域(市内上流部) 大和川水域(市内下流部)	C類型 D類型	BOD 5mg/L以下 BOD 8mg/L以下	すべての地点で達成
大阪湾水域	海域C類型	COD 8mg/L以下	すべての地点で達成

(注) 平成21年6月30日付大阪府公告第118号で、神崎川水系の安威川及び市内河川水域の正蓮寺川、尻無川、木津川、木津川運河、住吉川、東横堀川は環境基準類型がC類型からB類型に改訂されました。改定後の河川の水質環境基準類型は次図のとおりです。

(参考)河川の水質環境基準類型【平成21年6月30日改訂】



資料11-5 各測定地点における水質汚濁状況図(令和3年度)



環境基準類型(河川BOD)

B類型 (3mg/L以下) — 淀川(上流部)、神崎川、安威川、左門殿川、城北川、
市内河川(大川、堂島川、道頓堀川、六軒家川、安治川、東横堀川、正蓮寺川、
尻無川、木津川、木津川運河、住吉川)

C類型 (5mg/L以下) — 大和川(上流部)、淀川(下流部)、土佐堀川

D類型 (8mg/L以下) — 大和川(下流部)、寝屋川水系(古川、寝屋川、第二寝屋川、平野川、平野川分水路)

※大阪港湾水域(*印)のCOD環境基準は8mg/L以下

資料11-6 大阪市内公共用水域における水質調査結果(令和3年度)

① 河川(38地点)

No.	調査地点	河川名	類型	pH	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)
1	小松橋	神崎川	B	7.1 ~ 7.6	10	1.2 (1.1)	3.7	8
2	吹田橋	〃	B	7.1 ~ 7.5	10	2.4 (2.8)	—	—
3	新三国橋	〃	B	7.0 ~ 8.3	7.7	2.0 (2.2)	5.8	8
4	神崎橋	〃	B	7.2 ~ 8.6	6.9	2.2 (2.5)	5.3	4
5	千船橋	〃	B	7.2 ~ 7.7	8.7	1.5 (1.8)	5.1	3
6	辰巳橋	〃 (左門殿川)	B	7.0 ~ 8.4	7.7	2.0 (2.9)	4.9	4
7	新京阪橋	安威川	B	6.9 ~ 7.7	7.9	3.1 (3.0)	6.4	7
8	菅原城北大橋	淀川	B	7.6 ~ 7.9	9.3	1.0 (1.0)	3.2	4
9	伝法大橋	〃	C	7.6 ~ 8.7	9.3	3.1 (2.8)	4.1	6
10	今津橋	寝屋川	D	6.7 ~ 7.2	5.9	4.5 (5.1)	7.7	6
11	新喜多大橋	〃	D	6.9 ~ 7.1	6.5	3.9 (5.4)	—	—
12	京橋	〃	D	6.7 ~ 7.5	7.4	2.8 (3.4)	6.0	6
13	徳栄橋	古川	D	6.8 ~ 7.3	6.4	3.6 (4.3)	6.7	7
14	阪東小橋	第二寝屋川	D	6.8 ~ 7.1	8.8	4.0 (5.3)	—	—
15	下城見橋	〃	D	6.7 ~ 7.2	6.7	3.5 (4.2)	7.1	4
16	中竹渚橋	平野川	D	7.0 ~ 7.3	10	2.2 (2.8)	—	—
17	安泰橋	〃	D	7.0 ~ 7.5	10	2.1 (2.5)	—	—
18	睦橋	〃	D	6.9 ~ 7.4	10	2.2 (2.5)	—	—
19	南弁天橋	〃	D	6.6 ~ 7.4	7.8	2.7 (3.3)	7.1	5
20	城見橋	〃	D	6.6 ~ 7.2	7.0	3.1 (4.4)	7.4	5
21	片一橋	平野川分水路	D	6.8 ~ 7.2	10	3.3 (3.3)	—	—
22	天王田大橋	〃	D	6.7 ~ 7.1	6.6	3.7 (4.5)	7.3	4
23	赤川橋	城北川	B	7.4 ~ 7.7	11	0.9 (1.0)	—	—
24	毛馬橋	大川	B	7.5 ~ 7.6	11	1.0 (1.1)	—	—
25	桜宮橋	〃	B	7.3 ~ 7.7	11	0.9 (1.2)	2.9	5
26	天神橋(右)	堂島川	B	6.9 ~ 7.6	8.9	1.7 (1.8)	4.5	6
27	天神橋(左)	土佐堀川	C	6.9 ~ 7.6	8.7	1.9 (2.1)	4.8	6
28	天保山渡	安治川	B	7.3 ~ 8.1	8.5	1.1 (1.1)	3.9	2
29	北港大橋 下流700m	正蓮寺川	B	7.1 ~ 8.0	6.1	2.7 (2.7)	5.8	4
30	春日出橋	六軒家川	B	7.2 ~ 8.2	9.4	1.1 (1.1)	3.9	4
31	本町橋	東横堀川	B	6.9 ~ 8.9	7.9	1.6 (2.1)	4.2	4
32	大黒橋	道頓堀川	B	7.0 ~ 7.6	8.1	1.0 (1.2)	4.4	4
33	甚兵衛渡	尻無川	B	7.0 ~ 7.8	7.7	1.2 (1.5)	4.6	3
34	千本松渡	木津川	B	7.0 ~ 7.7	8.5	1.6 (2.0)	4.9	3
35	船町渡	木津川運河	B	7.1 ~ 8.7	11	1.9 (2.2)	4.6	3
36	住之江大橋 下流1100m	住吉川	B	6.8 ~ 8.1	8.2	2.6 (3.3)	6.3	3
37	浅香新取水口	大和川	C	7.9 ~ 8.1	9.4	1.6 (1.6)	5.8	5
38	遠里小野橋	〃	D	7.9 ~ 8.2	9.3	1.5 (1.7)	5.8	4

(注)1. 数値は年平均値です。(但し、pHは最小～最大を示しています)
 2. BOD欄の()内の数値は、日間平均値の年間75%値を示しています。
 3. 測定していない項目については「—」で示しています。

② 海 域(9地点)

No.	調査地点	類型	pH	DO (mg/L)	COD (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全磷 (mg/L)
39	神崎川河口中央	C	7.3~8.3	7.8	5.3 (5.1)	2.1	0.14
40	淀川河口中央	C	7.4~8.7	10	3.6 (4.0)	0.96	0.094
41	木津川河口中央	C	7.2~8.1	8.2	4.8 (5.2)	2.8	0.13
42	No.5ブイ跡	C	7.6~8.7	9.0	4.6 (5.0)	1.6	0.081
43	No.25 ドルフィン	C	7.9~8.7	10	4.7 (4.8)	1.8	0.085
44	北港沖 1,000m	C	7.9~8.9	10	4.8 (4.0)	1.1	0.059
45	大阪港関門外	C	8.0~8.9	9.5	4.4 (4.3)	0.99	0.053
46	南 港	C	7.6~8.5	8.1	4.8 (5.2)	1.5	0.076
47	大阪湾C-3	C	7.9~8.5	9.0	4.3 (4.7)	0.85	0.078

(注) 1. 表中の数値は、表層における測定値です。

2. 数値は年平均値です。(但し、pHは最小~最大を示しています。)

3. COD欄の()内の数値は、日間平均値の年間75%値を示しています。

資料11-7 大阪市内河川底質調査結果(令和3年度)

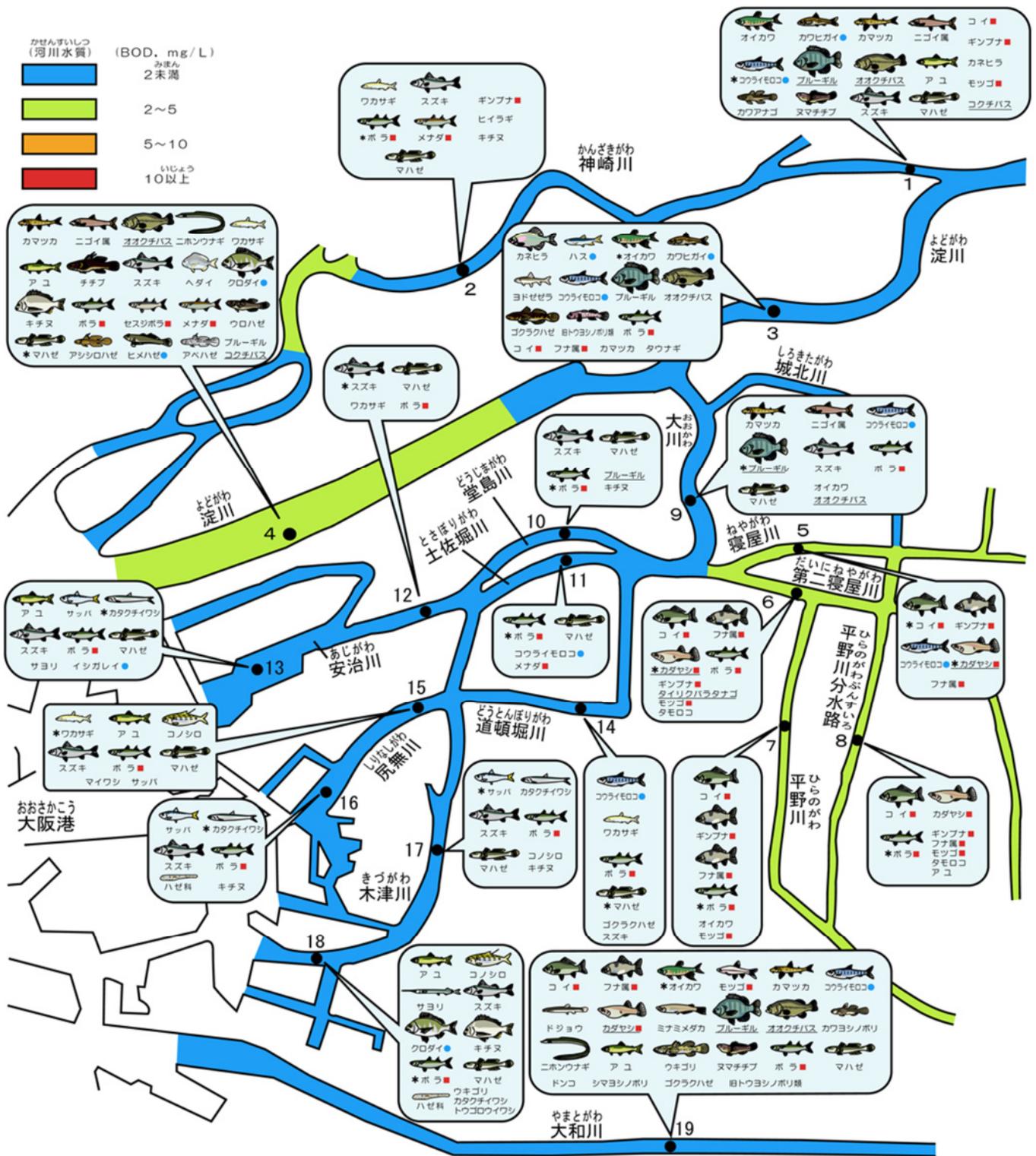
(乾燥重量値)

調査地点	河川名	含水率 (%)	pH	総水銀 (mg/kg)	アルキル水銀 (mg/kg)	P C B (mg/kg)
千船橋	神崎川	48	7.6	0.69	<0.01	0.80
大黒橋	道頓堀川	34	7.6	0.98	<0.01	0.52
天保山渡	安治川	66	7.8	0.55	<0.01	0.12
千本松渡	木津川	39	7.4	0.43	<0.01	0.13

資料11-8 市内河川魚類生息状況調査結果(平成29年度)

項目	調査結果
① 調査時期	春季調査 平成29年6月(5日間) 夏季調査 平成29年8月(5日間) 秋季調査 平成29年11月(5日間) 冬季調査 平成30年2月(5日間)
② 調査場所	大阪市内河川 19地点
③ 調査結果の概要	<p>ア. 確認された魚種は52種で、前回調査(平成23年度調査、以下同じ。)と比べて5種増加しました。うち在来種については46種で、前回調査と比べて5種増加しました。また、これまでの調査の中で最多の確認種数となりました。</p> <p>イ. 確認種数が多かった地点は、大和川(22種)、淀川下流(21種)、神崎川上流(17種)、淀川上流(15種)でした。</p> <p>ウ. きれいな水質の指標種の確認地点数は10地点であり、前回調査(11地点)とほぼ変わらない結果となりました。</p> <p>エ. 大阪府レッドリスト2014において絶滅危惧種として記載されている、カワヒガイ(絶滅危惧Ⅰ種)、ドジョウ(同Ⅱ類)、ミナミメダカ(同Ⅱ類)、ニホンウナギ(同Ⅱ類)、ヨドゼゼラ(同Ⅱ類)については、引き続き生息が確認されました。</p> <p>オ. 河口域においては、前回調査に引き続きハゼ類などの底生魚が確認されており、良質な水質状況が維持されています。</p> <p>カ. 外来種については、オオクチバス(ブラックバス)が前回調査の6地点から5地点で、ブルーギルが前回調査の7地点から6地点で確認されており、前回に比べ生息範囲が狭まりましたが、コグチバスが平成3年度の調査開始以降初めて2地点で確認されました。</p>
④ 河川ごとの特徴	<p>ア. 《神崎川》 上流域では、前回調査に引き続き、在来種であるコウライモロコやニゴイ属、オイカワなどが全体個体数の半数以上を占めて最も多くなりました。また、ブルーギルなどの外来種については、個体数、占有率とも前回調査より減少しております。 下流域では、ボラ、マハゼ、スズキなどの汽水性海水魚が最も多く確認されました。</p> <p>イ. 《淀川》 上流域では、在来種であるオイカワの個体数が増加し、ブルーギルなどの外来種については個体数が激減したため、外来種の占有率も大幅に低下しており、在来種の生育環境が改善されていることが確認されました。 下流域では、マハゼ、スズキ、ボラ、キチヌなどの汽水性海水魚が最も多く確認されました。</p> <p>ウ. 《寝屋川・第二寝屋川》 比較的汚濁に強い外来種であるカダヤシが多く確認されましたが、在来種であるフナ属やコイについても引き続き確認されました。また、寝屋川では指標種であるコウライモロコが前回調査に引き続き確認されました。</p> <p>エ. 《平野川・平野川分水路》 前回調査に引き続き、ボラ、フナ属などの比較的汚濁に強い種が多く確認されました。</p> <p>オ. 《大阪市内河川》 大川ではコウライモロコ、マハゼなどが確認されましたが、前回調査に引き続きブルーギルなどの外来種が確認されました。 道頓堀川では、指標種であるコウライモロコの個体数が増加しており、魚類にとって良好な生育環境が維持されていることが確認できました。 安治川、尻無川、木津川など汽水域では、スズキ、ボラ、カタクチイワシ、サッパなど汽水海水魚が多く確認されました。また、マハゼなどの底生魚が、ほぼすべての地点で確認されました。</p> <p>カ. 《大和川》 前回調査と同様、豊かな魚類相を示し、全調査地点中最も多い22種が確認されました。その中には、指標種であるコウライモロコや大阪府内では絶滅危惧種に区分されているドジョウ、ミナミメダカ、ニホンウナギが含まれます。また、本市の魚類調査において、初めてシマヨシノボリやカワヨシノボリが確認されており、水質や底質の改善により魚類にとっての生育環境が向上していることが確認できました。</p>

資料11-9 市内河川の魚類の分布(平成 29 年度)



- ・ 河川の BOD は平成 28 年度のデータを使用しております。
- ・ 各地点で確認された個体数が 2 個体以上のものはイラスト付き、1 個体のものは種名のみ表記しています。
- ・ 種名に引いたアンダーラインは、その種が外来種であることを示します。
- ・ (右側に) ● : きれいな水質の指標種を示します。
- ・ (右側に) ■ : 汚濁した水質でも生きられる種を示します。
- ・ (左側に) * : 各地点において最も個体数が多かった種を示します。

資料11-10 水環境協働推進会議関連の取組み

【水環境イベントの実施状況】

年・月・日		内容
令和3. 4.26~5. 2	平日	天王寺区民ギャラリー展示(天王寺区)
令和3. 9. 3	金	川辺小学校 出前講座(平野区)
令和3. 9.29	水	平林小学校 出前講座(住之江区)
令和3.10. 2	土	親子ハゼ釣り大会(西淀川区)
令和3.10.16	土	水辺教室(東淀川区淀川柴島干潟)
令和3.11.13	土	加美小学校 出前講座(平野区)
令和3.12.23	木	森之宮小学校 出前講座(城東区)
令和4. 1.18	火	敷津浦小学校 出前講座(住之江区)
令和4. 3.25	金	矢倉緑地プラスチックごみゼロアクション(西淀川区)

資料11-11 海洋プラスチックごみ削減等に関わるステークホルダー間の連携

年・月・日		内容
令和3. 7.24~25	土・日	天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会とマイボトルパートナーズの連携を構築
令和3.10. 3	日	大丸心斎橋店と大阪産業大学原田准教授の連携を構築
令和3.10.23~24	土・日	大丸心斎橋店と河川レンジャー(淀川管区)の連携を構築
令和3.11. 7	日	大阪城パークマネジメント共同事業体と NPO 法人海未来、大阪府トライアスロン協会の連携を構築
令和3.12.11	土	くら寿司と大阪市漁業協同組合の連携を構築

資料11-12 下水道普及状況(令和3年度末)

処理面積	190.74km ²
処理区域面積普及率 ※1	97.7 % (市陸地面積195.30km ²)
処理人口普及率 ※2	99.9 %
下水管渠延長	4,971km
下水処理場	12 箇所
抽水所	58 箇所
下水処理能力	2,844 千m ³ /日

※1 処理区域面積普及率=処理面積/市陸地面積

※2 処理人口普及率=処理人口(2,752,399人)/総人口(2,752,412人、令和2年確定値国調人口)

資料11-13 高度処理施設整備状況(令和3年度末)

高度処理施設	処理能力
急速ろ過法等の導入	590.6千m ³ /日
嫌気好気法への改良	1,753.9千m ³ /日
循環式硝化脱窒法等の導入	230.0 千m ³ /日

資料11-14 下水処理区と下水処理場

市内は、12の下水処理区と3つの流域下水道の区域に分けられています。



資料 11-15 下水処理状況(令和3年度)

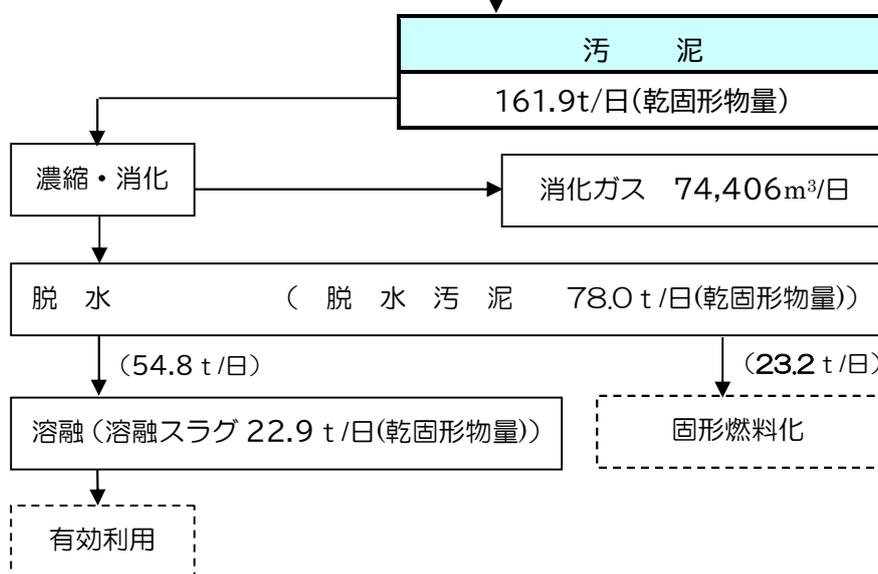
【水処理】

(二次処理水量 1,673,737 m³/日)

流入			放流		
	水質(mg/L)	負荷量(t/日)		水質(mg/L)	負荷量(t/日)
SS	100	167.1	SS	3	5.2
BOD	120	194.2	BOD	2.9	4.9
COD	68	113.5	COD	8.5	14.2
全窒素	24	40.7	全窒素	10	16.6
全りん	3.0	5.0	全りん	0.4	0.6

水質は市内12下水処理場における年間平均水質の加重平均値を示す。

【汚泥処理】



資料 11-16 水域別・行政区別・法律条例適用事業場数(令和4年3月末)

水域	行政区	瀬戸内海環境保全特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の保全等に関する条例	計
神崎川	西淀川区	2	23		25
	淀川区	1	1		2
	東淀川区				0
大阪市内河川	北区		2		2
	此花区	1	24	1	26
	港区		1		1
	大正区	5	4	2	11
	住之江区	1	3		4
	西成区		1	1	2
寝屋川	旭区	1			1
	城東区	1	3		4
	中央区				0
	平野区		1		1
大和川	平野区		5		5
計		12	68	4	84

(注)1. 水域区分は、水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例に基づきます。

2. 大阪市内12下水処理場を含みます。

3. 水質汚濁防止法は第5条第1項の規定に基づく特定事業場の数です。

資料11-17 立入指導等の状況(令和3年度)

	公共用水域へ 排水する事業場	公共下水道へ 排水する事業場
立入事業場件数	82	2,240
水質基準超過件数	0	272
排水の一時停止命令	0	0
改善命令	0	0
改善勧告	0	1
その他指示	0	271

(注)大阪市内12下水処理場を含みます。

資料11-18 水質関係 法律・条例申請受理件数(令和3年度)

水域	法律・条例	瀬戸内海環境保全 特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の 保全等に関する条例
淀川		0	0	0
神崎川上流		1	0	0
神崎川下流		0	8	0
寝屋川		0	0	0
大阪市内河川		1	11	2
大和川上流		0	0	0
合計		2	19	2

(注)特定(届出)施設の設置に係る申請件数です。
水質汚濁防止法に基づく申請は、第5条第1項の規定によるものです。
大阪市内12下水処理場を含みます。

資料11-19 特定事業場・除害施設必要事業場数(令和4年3月末)

行政区	特定事業場数	除害施設必要事業場数 (特定事業場以外を含む)
北区	129	142
都島区	45	38
福島区	49	46
此花区	88	106
中央区	84	84
西区	55	55
港区	58	47
大正区	63	63
天王寺区	45	40
浪速区	51	43
西淀川区	136	180
淀川区	134	134
東淀川区	81	68
東成区	92	90
生野区	129	111
旭区	38	30
城東区	82	87
鶴見区	68	70
阿倍野区	37	29
住之江区	104	121
住吉区	53	28
東住吉区	90	59
平野区	165	140
西成区	66	66
合計	1,942	1,877

(注)汚水を下水道へのみ放流する事業場数です。